

2016年訪中団報告

西安・

発展著しい内陸都市・西安の今を見る

(陝西省西安市 9月21日～26日 参加者19名)

2016年日中経済交流研究会の訪問先は陝西省西安市。テーマは「発展著しい内陸都市・西安の今を見に行く」です。訪中前日に居相副団長（アベル株式会社）が仕事の都合で不参加になったり、訪問先企業から「工事ミスで当日停電になり対応できません」と連絡が入ったりと、アクシデントに見舞われましたが、参加者17名（途中合流2名）が9月21日に元気に大阪を出発しました。訪問先は西安に進出している日系企業、西安外国語大学と盛りだくさんです。



西安外国語大学のみんなと

■ 内陸部に進出する日本企業の実態

西安は中国国土を二ワトリに例えると羽の付け根にあたる部分。物流の拠点として高速道路網、ハブ空港、地下鉄工事と「一路一帯」政策の要で、急速に開発が進んでいました。しかし人口870万人の巨大都市でありながら、日本からの進出企業数はわずか40あまり。駐留邦人も200名（語学留学生を含む）ということ。中国の国土の大きさに圧倒されるとともに、進出企業が少ないが故の苦勞を逆にエネルギーに変換している日本企業のたくましさを見ることができました。

■ 西安外国語大学でのおもてなし

2013年の武漢以来、中国人の学生との交流は訪中団の目玉です。今回は西安外国語大学日本文化経済学部の4年生です。学生たちは事前に私たちとペアを組んで交流をもつという、思いもよらないスタイルで迎えてくれました。それぞれのペアは、教室や、キャンパス内を自由に散策したり、学食で一緒にご飯を食べたりしながら将来のこと家族のことなど約3時間語り合いました。私の相棒は張君。昨年12月に草津温泉のホテルでインターンシップを経験したそうです。3カ月の滞在経験があるので、日本語は流暢でした。日本のアニメ文化にあこがれ日本に興味を持つ彼は、「日本語の通訳になりたい。そのためにもっと日本語を勉強したい。今日はいい経験ができました」と語ってくれました。それぞれのペアはわずかな時間ではありましたが、心を通い合わせることができたと思います。みんなは名残惜しい気持ちを持ちながら、メールやウェイシン（中国版LINE）のアドレスの交換をして収穫多い時間を過ごしました。

■ 唐の都「長安」の城壁をサイクリング

最終日、シルクロードの出発地点のモニュメントと古都「長安」の城壁を視察しました。モニュメントを前にして、いったん入れれば出るこ

シルクロードのモニュメント



とができないというタクラマカン砂漠を越えてシルクロードの交易にでかける隊商たちの命を懸けた覚悟が頭をよぎりました。城壁をサイクリングした時には、阿倍仲麻呂の「天の原ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」という和歌を思いだし、1300年以上前に学問、文化、仏教を学ぶために遣唐使として羅針盤もなく海を渡った日本の若者たちの覚悟を思い浮かべました。そして、西安で出会った学生たちも、夢や希望、覚悟を持って日中の架け橋となると確信を持ちました。

毎年、日中経済交流研究会は”中国の今”を自分の目で確かめるために中国を訪問しています。会員が主体となり、目的や訪問先を議論して実施しています。また、来年も実施しますので、ぜひ参加してください。今からでしたら企画にも関わってもらうことも可能です。興味があれば事務局の泉谷までお問い合わせください。

文：大山印刷（株） 大山武久